



## 2026年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)

2026年2月12日

上場会社名 ワシントンホテル株式会社 上場取引所 東・名  
 コード番号 4691 URL <https://www.washingtonhotel.co.jp>  
 代表者(役職名) 代表取締役社長 (氏名) 長谷川 太  
 問合せ先責任者(役職名) 経理財務部部長 (氏名) 津尾 則文 (TEL) 052(745)9036  
 配当支払開始予定日 -  
 決算補足説明資料作成の有無 : 無  
 決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

### 1. 2026年3月期第3四半期の業績 (2025年4月1日～2025年12月31日)

(1) 経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
2026年3月期第3四半期	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2025年3月期第3四半期	18,959	16.2	3,553	72.9	3,137	83.4	3,108	81.7
	16,322	16.6	2,055	43.0	1,710	50.6	1,710	55.0
	1株当たり 四半期純利益		潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益					
2026年3月期第3四半期	円 銭		円 銭		円 銭		円 銭	
2025年3月期第3四半期	258.79		—		—		—	
	141.81		—		—		—	

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
2026年3月期第3四半期	百万円	百万円	%
2025年3月期	35,014	12,336	35.2
	33,545	9,446	28.2

(参考) 自己資本 2026年3月期第3四半期 12,336百万円 2025年3月期 9,446百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
2025年3月期	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2026年3月期	—	0.00	—	20.00	20.00
2026年3月期(予想)	—	0.00	—	40.00	40.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 有

### 3. 2026年3月期の業績予想 (2025年4月1日～2026年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
通期	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

## ※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(注) 詳細は【添付資料】7ページ「2 (3) 四半期財務諸表に関する注記事項（四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用）」をご覧ください。

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）

2026年3月期3Q	12,170,000株	2025年3月期	12,170,000株
2026年3月期3Q	175,403株	2025年3月期	144,103株
2026年3月期3Q	12,011,585株	2025年3月期3Q	12,061,979株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数（四半期累計）

※ 添付される四半期財務諸表に対する公認会計士又は監査 法人によるレビュー : 無

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的と判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。なお、業績予想に関する事項は、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期貸借対照表	4
(2) 四半期損益計算書	6
第3四半期累計期間	6
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7
(四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	7
(セグメント情報等)	7
(キャッシュ・フロー計算書に関する注記)	7
(重要な後発事象)	7

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第3四半期累計期間における我が国経済は、雇用・所得環境の改善を背景に、緩やかな回復基調で推移しました。一方で、物価上昇の継続が個人消費に及ぼす影響等の懸念や海外情勢の不確実性等により、先行きは不透明な状況が続いております。

ホテル業界におきましては、大阪・関西万博の開催による需要の押し上げ効果に加え、2025年の訪日外国人客数が4,268万人と過去最多となるなど、国内レジャー及びインバウンド需要は総じて堅調に推移しました。しかしながら、11月から中国政府による渡航自粛要請の影響が一部で出はじめしており、今後の動向には留意する必要があります。

このような環境下、前期から当期にかけて全館リニューアルを完了した計4ホテル（注1）の収益性が向上したほか、エリア別では大阪・関西万博の開催があった近畿地区や、名古屋駅前・岡山・博多の各地区が好調に推移いたしました。その他の地域におきましても、繁忙期を捉えたレバニューマネジメントの強化やセールスプロモーション活動が奏功し、RevPAR（販売可能な客室1室当たりの売上）は、前年同期を大きく上回りました。

当期は、「睡眠・入浴・朝食」にこだわった全館リニューアルをワシントンR&Bホテル3事業所にて着手しており、「名古屋栄東」は2026年2月、「新横浜駅前」は同年4月、「札幌北3西2」は同年6月に完了する予定です。既にリニューアルを終えた客室から順次販売を開始しております。また、全館リニューアルを契機に2025年4月にワシントンR&Bホテル梅田東で導入した当社独自の取組みである『選べるマットレス』（「エアヴィーヴ」または「西川・Air（エアー）」のいずれかを選べる）を、この3事業所にも導入しました。今後も導入事業所の拡大を図り、良質な睡眠の提供を通じた顧客満足度の向上とブランドの差別化を図ってまいります。また、増室を進めているコネクティングルームは、消灯時間など生活リズムの違いへの対応や適度なプライバシーの確保、水回りの独立性などの理由から高い評価をいただいていることを踏まえ、導入を加速してまいります。

販売促進面では、国内外の旅行代理店や国内法人への営業を継続して強化するとともに、地方自治体主催の商談会に積極的に参加し関係構築を図ったほか、台湾・韓国・タイなどの旅行博覧会にも出展いたしました。また、2025年4月に名称変更した当社公式宿泊予約サイト「ワシントンネット」におきましては、価格面での優位性に加え、予約受付期間を1年先まで延長するなど、他のOTAとの差別化を推進しました。これらの結果、12月末時点の会員数は、期初から8万3千人増加し、58万8千人となりました。

飲食店舗におきましても、季節食材を使用したメニューの提供やインターネット予約の利便性向上・優待券の配布・観光バス団体向けランチの営業強化に取り組んだほか、宿泊者向けには特別メニューの提供や各地の郷土料理を取り入れた朝食催事を実施するなどにより、集客力の向上に努めました。

なお、当第3四半期累計期間の客室販売は、客室稼働率が前年同期比3.9ポイント上昇し、74.3%となりました（注2）。また、ADRは前年同期比11.9%増の8,679円、RevPARは同18.1%増の6,448円となりました。外国人宿泊比率については、11月以降、中国からの宿泊に減少がみられるものの、韓国、台湾をはじめとする他国からの利用は堅調に増加していることに加え、リニューアルを完了したホテルでの増加や、一部ホテルにおける海外ゴルフパック利用の拡大等により、前年同期比2ポイント上昇し10.3%となりました。

これらの結果、当第3四半期累計期間の業績は、売上高18,959,432千円（前年同期比16.2%増）、営業利益3,553,015千円（前年同期比72.9%増）、経常利益3,137,010千円（前年同期比83.4%増）、四半期純利益3,108,446千円（前年同期比81.7%増）となりました。

なお、当社はホテル事業の単一セグメントであるため、セグメント別の記載を省略しております。

注1. 全館リニューアルは、前期2024年7月に「ワシントンR&Bホテル大塚駅北口」、同年8月に「熊本ワシントンホテルプラザ」が完了。当期は2025年4月に「ワシントンR&Bホテル京都駅八条口」と「ワシントンR&Bホテル梅田東」が完了。

注2. 客室稼働率・RevPARは、全館リニューアルによる販売不能客室を控除した上で算出しております。

## (2) 財政状態に関する説明

## (資産)

当第3四半期会計期間末における資産合計は、前事業年度末に比べ1,469,132千円増加の35,014,682千円となりました。これは主に現金及び預金が1,047,975千円、流動資産その他が316,283千円、建物（純額）が304,396千円増加した一方、リース資産（純額）が141,434千円減少したこと等によるものであります。

## (負債)

当第3四半期会計期間末における負債合計は、前事業年度末に比べ1,420,490千円減少の22,678,176千円となりました。これは主に流動負債その他が212,172千円、未払金が130,302千円増加した一方、短期借入金が1,000,000千円、長期借入金が750,000千円減少したこと等によるものであります。

## (純資産)

当第3四半期会計期間末における純資産合計は、前事業年度末に比べ2,889,622千円増加の12,336,506千円となりました。これは主に利益剰余金が2,865,944千円増加したこと等によるものであります。

## (3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

業績予想など将来予測情報に関する説明においては、本日（2026年2月12日付）発表しております「通期業績予想の修正及び配当予想の修正に関するお知らせ」に記載したとおりです。

2026年3月期 通期業績予想（2025年4月1日～2026年3月31日）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想（A）	百万円 23,500	百万円 3,050	百万円 2,460	百万円 2,420	円銭 201.11
今回発表予想（B）	24,200	3,760	3,220	2,930	244.02
増減額（B-A）	700	710	760	510	—
増減率（%）	3.0	23.3	30.9	21.1	—
（参考）前期実績 (2025年3月期)	21,347	2,240	1,755	2,015	167.13

## 2. 四半期財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (2025年3月31日)	当第3四半期会計期間 (2025年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流动資産		
現金及び預金	5,966,495	7,014,471
売掛金	1,441,915	1,472,704
原材料及び貯蔵品	45,535	61,299
前払費用	521,823	501,080
その他	4,723	321,006
流动資産合計	7,980,492	9,370,562
固定資産		
有形固定資産		
建物（純額）	9,257,449	9,561,845
工具、器具及び備品（純額）	245,531	229,831
土地	5,564,875	5,564,875
リース資産（純額）	4,051,111	3,909,676
建設仮勘定	359,798	230,069
その他（純額）	204,769	181,348
有形固定資産合計	19,683,537	19,677,647
無形固定資産		
電話加入権	21,047	21,047
ソフトウエア	121,394	136,219
その他	28,154	12,348
無形固定資産合計	170,596	169,615
投資その他の資産		
投資有価証券	358,316	486,080
長期貸付金	2,000	2,000
長期前払費用	121,217	124,555
繰延税金資産	768,579	721,367
差入保証金	4,442,481	4,445,383
その他	37,231	36,370
貸倒引当金	△18,900	△18,900
投資その他の資産合計	5,710,924	5,796,857
固定資産合計	25,565,058	25,644,120
資産合計	33,545,550	35,014,682

(単位：千円)

	前事業年度 (2025年3月31日)	当第3四半期会計期間 (2025年12月31日)
<b>負債の部</b>		
<b>流動負債</b>		
買掛金	148,485	209,440
短期借入金	1,000,000	—
1年内返済予定の長期借入金	1,000,000	1,000,000
リース債務	155,231	158,747
未払金	1,419,694	1,549,997
未払費用	524,214	621,434
契約負債	59,878	94,242
未払法人税等	32,271	24,203
賞与引当金	136,494	76,208
その他	322,609	534,782
<b>流動負債合計</b>	<b>4,798,879</b>	<b>4,269,057</b>
<b>固定負債</b>		
長期借入金	13,613,000	12,863,000
リース債務	4,924,601	4,805,095
長期未払金	198,824	164,981
株式報酬引当金	58,567	69,970
再評価に係る繰延税金負債	432	432
資産除去債務	441,676	443,043
その他	62,685	62,595
<b>固定負債合計</b>	<b>19,299,787</b>	<b>18,409,118</b>
<b>負債合計</b>	<b>24,098,667</b>	<b>22,678,176</b>
<b>純資産の部</b>		
<b>株主資本</b>		
資本金	100,000	100,000
資本剰余金	4,307,624	4,308,607
利益剰余金	5,944,654	8,810,598
自己株式	△123,903	△181,760
<b>株主資本合計</b>	<b>10,228,375</b>	<b>13,037,445</b>
<b>評価・換算差額等</b>		
その他有価証券評価差額金	163,971	244,523
土地再評価差額金	△945,463	△945,463
<b>評価・換算差額等合計</b>	<b>△781,491</b>	<b>△700,939</b>
<b>純資産合計</b>	<b>9,446,883</b>	<b>12,336,506</b>
<b>負債純資産合計</b>	<b>33,545,550</b>	<b>35,014,682</b>

## (2) 四半期損益計算書

第3四半期累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)	当第3四半期累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年12月31日)
売上高	16,322,704	18,959,432
売上原価	13,719,205	14,793,464
売上総利益	2,603,499	4,165,968
販売費及び一般管理費	548,211	612,952
営業利益	2,055,287	3,553,015
営業外収益		
受取利息及び配当金	567	6,238
受取手数料	6,205	9,251
受取保険金	2,719	1,479
その他	8,185	5,833
営業外収益合計	17,677	22,803
営業外費用		
支払利息	323,569	395,806
支払手数料	38,359	40,522
その他	817	2,479
営業外費用合計	362,746	438,808
経常利益	1,710,218	3,137,010
特別損失		
固定資産除却損	4,743	4,360
訴訟関連引当金繰入額	88,410	—
その他	829	—
特別損失合計	93,984	4,360
税引前四半期純利益	1,616,234	3,132,649
法人税、住民税及び事業税	△94,312	24,203
法人税等合計	△94,312	24,203
四半期純利益	1,710,547	3,108,446

## (3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

中間会計期間において、従業員持株会への第三者割当による自己株式の処分を12,927千円行った一方、取締役に対する株式報酬制度等に基づく自己株式の取得を70,784千円行っております。これらの取引等により、当第3四半期会計期間末における自己株式は181,760千円となっております。

(四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

(税金費用の計算)

税金費用については、当第3四半期会計期間を含む事業年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。ただし、当該見積実効税率を用いて税金費用を計算すると著しく合理性を欠く結果となる場合には、法定実効税率を使用しております。

(セグメント情報等)

## 【セグメント情報】

当社は、ホテル事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

(キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第3四半期累計期間に係る四半期キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期累計期間に係る減価償却費(無形固定資産に係る償却費を含む。)は、次のとおりであります。

	前第3四半期累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)	当第3四半期累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年12月31日)
減価償却費	841,900千円	914,470千円

(重要な後発事象)

該当事項はありません。